

別紙 1-1：選定施設について

本事業では、次の選定施設を対象に、各施設の課題の解決に向けた導入実証を実施します。各施設の募集内容は、項目：別紙 1-3 を参照してください。

| 種別 | 施設名 | 企業・団体名 | 施設所在地 |
|------|-----------------|---------------------|--------|
| 商業施設 | アリオ橋本 | (株)セブン&アイ・クリエイトリック | 相模原市緑区 |
| | 横浜四季の森フォレオ | 大和ハウスリアルティマネジメント(株) | 横浜市旭区 |
| 医療施設 | 湘南鎌倉総合病院 | (医)徳洲会 | 鎌倉市 |
| | 栄聖仁会病院 | (医)聖仁会 | 横浜市栄区 |
| 宿泊施設 | 湯本富士屋ホテル | 富士屋ホテル(株) | 箱根町 |
| 介護施設 | わかたけ富岡 | (福)若竹大寿会 | 横浜市金沢区 |
| 研究施設 | 湘南ヘルスイノベーションパーク | アイパークインスティテュート(株) | 藤沢市 |

別紙 1-2：選定施設の現地見学会

導入実証の実施を予定している選定施設の現地見学会を次の日程で開催します。参加を希望される方は、事前の参加登録をお願いします(各施設の現地見学会の開催 1 営業日前の 12:00 までに事前参加登録をしてください)。

【開催日程】

| | |
|------|---|
| 施設名 | アリオ橋本 |
| 施設住所 | 神奈川県相模原市緑区大山町 1-2 2 |
| 開催日程 | 令和 5 年 10 月 19 日(木) 16:00 - 17:00 |
| 留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 駐車場の利用：可能(駐車券をお持ちいただければ無料で駐車いただけるよう手続きを致します) ◇ 施設内の写真撮影は可能ですが、来館者が映り込まないよう配慮をお願いします。 |

| | |
|------|--|
| 施設名 | 横浜四季の森フォレオ |
| 施設住所 | 神奈川県横浜市旭区上白根 3-4 1-1 |
| 開催日程 | 令和 5 年 10 月 18 日(水) 16:30 - 17:30 |
| 留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 駐車場の利用：他のお客様と同様、4階駐車場を無料で利用可 ◇ 受入人数：10 名程度を予定 ◇ 施設内の写真撮影は可能。撮影を控えて頂きたい場合は都度お伝えします。 |

| | |
|------|-----------------------------------|
| 施設名 | 湘南鎌倉総合病院 |
| 施設住所 | 神奈川県鎌倉市岡本 1 3 7 0-1 |
| 開催日程 | 令和 5 年 10 月 17 日(火) 11:00 - 12:00 |
| 留意事項 | ◇ 駐車場の利用：可能 |

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 院内ではマスクの着用をお願いします。 ◇ 受入人数：10名程度を予定 ◇ 院内での写真撮影については、患者や来訪者が映り込まないように配慮をお願いします。 |
|--|---|

| | |
|------|---|
| 施設名 | 栄聖仁会病院 |
| 施設住所 | 神奈川県横浜市栄区公田町337-1 |
| 開催日程 | 令和5年10月13日(金) 16:00 - 17:00 |
| 留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 院内ではマスクの着用をお願いします。また、感染症対策は十分をお願いします。(※体調が悪い場合は別日を設定いたしますので、無理をされないようお願い致します。) ◇ 院内での写真撮影については、患者や来訪者、ネームプレートなどの個人情報映り込まないように配慮をお願いします。 ◇ 受入人数：6名程度(1社1名)を予定 ◇ 駐車場の利用：可能 |

| | |
|------|--|
| 施設名 | 湯本富士屋ホテル |
| 施設住所 | 神奈川県足柄下郡箱根町湯本256-1 |
| 開催日程 | 令和5年10月12日(木) 11:00 - 12:00 |
| 留意事項 | ◇ 施設内の写真撮影は可能ですが、宿泊客が映り込まないように配慮をお願いします。 |

| | |
|------|--|
| 施設名 | わかたけ富岡 |
| 施設住所 | 神奈川県横浜市金沢区富岡東2-1-5 |
| 開催日程 | 令和5年10月17日(火) 16:00 - 17:00 |
| 留意事項 | ◇ 施設内の写真撮影は可能ですが、利用者が映り込まないように配慮をお願いします。 |

| | |
|------|---|
| 施設名 | 湘南ヘルスイノベーションパーク |
| 施設住所 | 神奈川県藤沢市村岡東2-26-1 |
| 開催日程 | 令和5年10月16日(月) 13:00 - 14:00 |
| 留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 駐車場の利用：可能(有料) ◇ 施設内の写真撮影は可能ですが、入居者や入居企業のオフィス内の撮影は不可。 |

【事前参加登録】

施設見学会に参加を希望される方は、下記のウェブサイトから参加登録をお願いします。



https://murc-jimukyoku.smartcore.jp/robot_visit

※上記サイトはロボット実装促進センター事業運営受託者(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)が管理する外部ウェブサイトになります。

別紙 1-3 : 各選定施設の募集内容


本事業が選定した 7 施設の募集内容、解決を希望する課題の詳細は以下の通りです。

(1)

| | |
|-------------------------------------|---|
| 施設名 | アリオ橋本 |
| 住所 | 神奈川県相模原市緑区大山町 1-22 |
| 施設種別 | 商業施設 |
| 施設イメージ |   |
| 運営団体 | 株式会社セブン&アイ・クリエイトリック |
| 施設の概要 | リニア中央新幹線の開通によって隣接地に新駅が開業予定の成長エリアに位置する商業施設。総合スーパー「イトーヨーカドーアリオ橋本店」を核店舗に 140 以上のテナントで構成される。 |
| 募集内容 (募集テーマ) | 1. ロボット等の活用による案内業務及び広報業務の機能拡充、業務負荷の低減 |
| 課題 | A) 来館者に対する施設案内業務 B) 来館者に対する店舗情報、イベント情報などの広報業務 |
| ① どのような業務に関する課題か 業務上、どのような課題があるか | <p>【A)の業務について】</p> <p>■ 課題：インフォメーションセンターが設置されていない出入口付近の案内業務の機能拡充の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ アリオ橋本は 2 階建ての 1 周約 800m の大型施設。インフォメーションセンターは橋本駅側の出入口付近のみ設置されており、それ以外の出入口における施設案内の機能の拡充が必要。 ✓ 今後リニアモーターカーが開業し、橋本駅周辺ではインバウンド客の増加が見込まれる。それに向け、施設案内の機能拡充について計画的な準備を行うことが必要。 <p>■ 課題：インフォメーションセンターの業務負荷の高さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ インフォメーションセンターの前に施設案内を求める来館者の列ができてしまうことがある。店舗やイベント会場までの道順などを尋ねたい来館者をお待たせしてしまう結果、店舗等への誘客ができず機会損失が生じている可能性がある。 ✓ インフォメーションセンターでは施設案内のほか、電話対応、迷子の対応など様々な業務を担っており、スタッフの負荷は高い。 <p>【B)の業務について】</p> <p>■ 課題：館内への広報物の掲示業務の負荷の高さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 館内各所にインフォメーションボードなどを設置しているが、施設が広いため、ポスター等の広報物の掲示に時間を要している。 ✓ 広報物の掲示業務は来館者が少ない時間帯に行う必要があるため、結果として、就業時間が延びてしまうこと |

| | |
|----------------------|--|
| | <p>もある。</p> <p>■ <u>課題：新たな広報媒体の確保の必要性</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 館内のインフォメーションボードに加え、空き店舗スペースの壁などに広報物を掲示しているが、新たなテナントの出店が決まると広報物の掲示に活用できるスペースが減る。広報物を掲示する新たな広報媒体が必要。 ✓ 来館者に対し店舗情報、イベント開催情報をもっと積極的にPRしたいが、館内に広報物を掲載するスペースが少ない。 |
| 現在どのように業務を遂行しているか | <p>【A)の業務について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 館内 1 か所のみ設置しているインフォメーションセンターは、平日は4名体制、休日は5名体制で営業時間中運営。 <p>【B)の業務について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ アリオ橋本の販促担当チーム（5名）がイベントの企画・管理等を担当。イベント開催時にはスタッフが大判のポスターを作成し、2名掛かりで掲示業務を実施。週2回の頻度で1～2時間かけて館内を巡回しながら掲示業務を実施。 |
| 目指したい課題解決の姿（導入実証の目標） | <p>【総論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 以下に記載する案内業務と広報業務を一体的に担うロボット等を館内で運用したい。 <p>【A)の業務について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ インフォメーションセンターが設置されていない出入口や施設共用部などをロボット等が巡回し、案内が必要な来館者に対しロボット等が対応することを希望。 ◇ ロボット等を活用した案内業務の機能拡充により、インフォメーションセンターに寄せられる問い合わせ件数の削減（業務負荷の低減）、店舗やイベント会場への誘客・販売促進につなげたい。 <p>【B)の業務について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ ディスプレイ搭載型の自律走行ロボット等に広報コンテンツ（画像、動画）を投影することで、ポスター等の広報物の印刷・掲示に係る業務工数を削減するとともに、館内店舗や近隣事業者からの広告出稿による新たな売上確保につなげたい。 |
| 課題の解決により実現したいこと | <p>【A)の業務について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ インフォメーションセンターの業務負担の軽減を通じて、来館者への接客をより一層手厚くするとともに、コロナ禍で止めていた来館者へのアテンド業務を再開させたい。 <p>【B)の業務について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 広報物の作成・掲示業務に要する工数を削減し、販促担当チームが企画業務に注力できるようにしたい。 |
| ロボット等を施設で運用する際の留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 案内・広報業務を担うロボット等には、視認性の高い大きなディスプレイが搭載されていることを希望。また、来館者に親しまれるデザインに改良してもらいたいことを希望。 ◇ 子どもの来館が多い施設のため、ロボット等の運用にあたり安全性の確保には配慮が必要。 ◇ ロボット等が広報コンテンツ（動画）を投影する際、通路周辺の店舗から苦情が出る可能性があるため、音量の調整が効く仕様を希望。 |


(2)

| | |
|-----------------------|---|
| 施設名 | 横浜四季の森フォレオ |
| 住所 | 神奈川県横浜市旭区上白根 3-41-1 |
| 施設種別 | 商業施設 |
| 施設イメージ |  |
| 運営団体 | 大和ハウスリアルティマネジメント株式会社 |
| 施設の概要 | JR 中山駅からバスにて 10 分に立地。四季の森公園に近接する 3 階建てのショッピングセンター。ホームセンター・スーパーマーケット・家電量販店を中心とした 29 店舗で構成される。 |
| 募集内容 (募集テーマ) | 1. ロボット等の活用による清掃業務の効率化 (課題①) 2. ロボット等の活用による遠隔での安全管理・警備業務の実施 (課題②) 3. ロボット等の活用による施設の案内業務の実施 (課題③) |
| 課題 | 施設内共用部を対象とした清掃業務 |
| ① どのような業務に関する課題か | ■ <u>課題：施設内共用部の清掃業務に要する工数削減の必要性</u> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 常駐している清掃員数が少なく、細やかな清掃の手が回らない箇所がある。 ✓ 特に、閉店後の清掃が十分でない場合、翌朝に清掃業務が持ち越され、本来集中して作業を行いたいお客様用お手洗いや授乳室の清掃にまで、十分時間を割くことができなくなってしまう。 |
| 現在どのように業務を遂行しているか | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 施設内共用部の清掃業務は外部事業者へ委託しており、時間帯によって稼働人数は異なる。 ◇ 開店前清掃：2階・3階の共用部フロアの床清掃は、手押しの大型清掃機を使用。2時間程度の時間を要している。 ◇ 開店中清掃：お客様用お手洗いやバックヤードの事務室、ゴミ庫など、決められたルートを巡回しながら清掃。共用部フロアをちりとりとほうきで清掃する時間もある。また、来館者がアイスを落とすなどした際には、突発的な清掃が求められる場面もある。 |
| 目指したい課題解決の姿 (導入実証の目標) | ◇ ロボット等の活用により、共用部フロアの清掃業務に要する清掃員の工数を削減したい。 |
| 課題の解決により実現したいこと | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 共用部フロアの清掃業務にロボット等を活用し削減することができた清掃員の工数を、お客様用お手洗いや授乳室の清掃業務に充てたい。 ◇ 来館者の目につく箇所を細やかに清掃することで、施設に対するイメージの向上、安心して利用できる施設環境の実現を図りたい。 |

| | | |
|---------|----------------------|---|
| | ロボット等を施設で運用する際の留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 施設内の一部エリアには狭い通路が存在するものの、全体としては通路幅に大きな問題はみられない。 ◇ 施設内に Wi-Fi 等の通信環境は整備されていない（キャリア電波状況は良好）。 |
| 課題 ② | どのような業務に関する課題か | 施設内共用部を対象とした安全管理・警備業務 |
| | 業務上、どのような課題があるか | <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>課題：施設内共用部の遠隔での安全管理・警備業務の実現の必要性</u> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 施設内に巡回警備員を配置していないため、中央監視室のモニターを通じて監視カメラの映像を確認し、警備業務を実施。中央監視室に常駐している警備員は少数のため、モニター確認以外の業務に対応していると、救急対応や緊急事態の発見が遅れてしまうことがある。 ✓ 当施設の来館者には高齢者が多く、躓いて転倒してしまうこともある。その際の第1次発見者はテナント従業員や別の来館者であるケースも少なくないことは施設運営上の課題と認識している。 ✓ また、警備員が現場に駆け付け、中央監視室に警備員が不在となる場合、施設全体を監視することができず、別の事案への対応が難しくなる点も課題である。 |
| | 現在どのように業務を遂行しているか | ◇ 来館者の転倒を発見したテナント従業員や別の来館者から事務室に連絡が入ると、中央監視室から警備員が急行し、併せて事務スタッフも現場に向かい対応を行っている。 |
| | 目指したい課題解決の姿（導入実証の目標） | ◇ ロボット等を活用し、中央監視室から警備員が離れることなく遠隔で現場の状況を確認するとともに、転倒した来館者と遠隔でコミュニケーションが取れるようにしたい。 |
| | 課題の解決により実現したいこと | ◇ 来館者に対する安心感の醸成、施設全体の安全性の向上を図りたい。 |
| | ロボット等を施設で運用する際の留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 施設内の一部エリアには狭い通路が存在するものの、全体としては通路幅に大きな問題はみられない。 ◇ 施設内に Wi-Fi 等の通信環境は整備されていない（キャリア電波状況は良好）。 |
| 課題 ③ | どのような業務に関する課題か | 施設全体を対象とした案内業務 |
| | 業務上、どのような課題があるか | <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>課題：施設内共用部の案内業務の機能拡充の必要性</u> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 施設内にインフォメーションカウンターがないため、サービスカウンターを設置している一部テナントに、来館者からの問い合わせが集中し、テナント側に負荷をかけている。 |
| | 現在どのように業務を遂行しているか | <ul style="list-style-type: none"> ◇ トイレや授乳室などの設備の案内は、フロアガイド（掲示）のみで対応している。 ◇ 施設内に事務所と繋がる固定電話を設けており、施設案内や問い合わせ業務に対し、一定の需要があることは確認している。ただし、固定電話の設置箇所の関係で、問い合わせの内容に偏りがみられる。 |
| | 目指したい課題解決の姿（導入実証の目標） | <ul style="list-style-type: none"> ◇ ロボット等を活用し、各テナントではなく、事務所が来館者からの問い合わせを直接受けられる仕組みを整備したい。特に、定型回答が可能な問い合わせにはロボット等で自動対応できるようにしたい。 ◇ ロボット等を通じて来館者からの問い合わせを受け付ける |


| | | |
|--|---------------------|--|
| | | だけでなく、来館者へのイベント情報の告知・案内など、ロボット等を通じた情報発信も行いたい。 |
| | 課題の解決により実現したいこと | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 来館者のお困りごとをその場で解消できるようにし、施設に対しポジティブな感情を持ってもらえるようにしたい。 ◇ 施設内の各所でイベント情報の発信を行うことで、いままで以上に活気や賑わいのある施設としたい。 |
| | ロボット等を施設で運用する際の留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 施設内の一部エリアには狭い通路が存在するものの、全体としては通路幅に大きな問題はみられない。 ◇ 施設内に Wi-Fi 等の通信環境は整備されていない（キャリア電波状況は良好）。 |

(3)

| | | |
|--------------|--|---|
| 施設名 | 湘南鎌倉総合病院 | |
| 住所 | 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 | |
| 施設種別 | 医療施設 | |
| 施設イメージ |  | |
| 運営団体 | 医療法人徳洲会 | |
| 施設の概要 | J R大船駅西口から車で約 10 分の場所に立地。病院本館、先端医療センター、救命救急センター、外傷センターで構成される。 (許可病床数 669 床) | |
| 募集内容 (募集テーマ) | <ol style="list-style-type: none"> 1. ロボット等の活用による院内の買物代行の代替 (課題①) 2. ロボット等の活用による院内の移動サポート (課題②) 3. ロボット等の活用による無断離院の防止 (課題③) | |
| 課題 | どのような業務に関する課題か | 入院患者のケア業務に付随する行為 (買物代行) |
| ① | 業務上、どのような課題があるか | <p>■ 課題：入院患者から要請される買物代行の負荷の高さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 歩行が困難ならびに離床ができない入院患者から要請される買物代行が、看護師ならびに看護補助者の時間的・精神的負担となっている。患者と看護師らとの間でお金の受け渡しが発生することも負担となっている。 ✓ 買物を代行することで、有資格者である看護師ならびに看護補助者が本来の業務に専念できなくなっている。 |
| | 現在どのように業務を遂行しているか | ◇ 入院患者からの要請を受けて、看護師・看護補助者が、院内 1 階にある売店に買い物に行き、病室まで持ち帰っている。 |
| | 目指したい課題解決の姿 (導入実証の目標) | ◇ 病室から患者が自らタブレット端末等で注文を行い、運搬ロボット等が病室まで注文の品を届けるなど、できるだけ人の介在をなくし、買物代行をロボット等に代替させたい。 |
| | 課題の解決により実現したいこと | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 看護師、看護補助者が本来業務に専念できる状態を実現したい。 ◇ 入院患者には、気兼ねなく自分の好きなタイミングで買い物ができる環境を提供し、QOL の向上につなげたい。 |
| | ロボット等を施設で運用する際の留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 保管場所の制約を踏まえ、導入するロボット等は 1～2 台を想定。 ◇ ガラス張りのエリアが多く、自律移動型ロボット等の走行の障壁になる可能性がある。 ◇ 1 階部分には絨毯を敷いているエリアがあるため、自律移動型ロボット等の走行の障壁になる可能性がある。 ◇ 外来患者が行き来するエリアがあるため、ロボット等の走行には注意が必要である。 ◇ 当院には 4 つの棟があり、その間には渡り廊下や自動ドアがある。それを抜けて移動する必要がある。 |
| 課題 | どのような業務に関する課題か | 外来通院患者の院内の移動支援業務 |
| ② | 業務上、どのような課題があるか | <p>■ 課題：外来通院患者に対する院内の移動支援サービスの拡充の必要性</p> |


| | | |
|---------|----------------------|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 病院玄関に来院した外来通院患者の歩行が困難な場合、受付スタッフが移動を手伝っている。なお、行き先が遠い場合、その行き帰りの間、受付が無人となり受付の機能が果たせない。 ✓ 施設面積が広がる中、高齢化に伴い歩行が困難な方が増加しているため、外来通院患者に対する院内移動サービスの拡充、歩行補助支援の必要性が高まっている。 |
| | 現在どのように業務を遂行しているか | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 院内に受付が3か所あるが、それぞれの受付はスタッフ1名で運営。 ◇ 外来通院患者の目的先までの移動を支援する場合、目的先での要件が終わると、再度迎えに行き、さらに次の検査場所までの移動をサポートしている。 |
| | 目指したい課題解決の姿（導入実証の目標） | ◇ 病院の入口から院内の目的先までの院内移動サービスの拡充、歩行補助支援を目的とした、歩行が困難な外来通院患者向けの移動をサポートするロボット等を導入し、受付が無人になる時間を減らしたい。 |
| | 課題の解決により実現したいこと | ◇ 歩行が困難な外来通院患者にとっても利用しやすい施設であることを維持しつつ、受付スタッフの負担軽減及び本来業務に専念できる状態を実現したい。 |
| | ロボット等を施設で運用する際の留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 導入するロボット等は1～2台を想定。 ◇ ガラス張りのエリアが多く、自律移動型ロボット等の走行の障壁になる可能性がある。 ◇ 1階部分には絨毯を敷いているエリアがあるため、自律移動型ロボット等の走行の障壁になる可能性がある。 ◇ 外来患者が行き来するエリアがあるため、ロボット等の走行には注意が必要である。 ◇ 当院には4つの棟があり、その間には渡り廊下や自動ドアがある。それを抜けて移動する必要がある。 |
| 課題 ③ | どのような業務に関する課題か | 入院患者のケア業務に付随する行為（安全管理・確保） |
| | 業務上、どのような課題があるか | <ul style="list-style-type: none"> ■ <u>課題：歩行可能な入院患者の無断離院（外出）</u> ✓ 歩行可能な入院患者が無断で離院（外出）した場合、捜索などに時間を要するとともに、患者の身体や生命に危険が及ぶ可能性がある。入院患者の安全管理・確保の強化のため、無断離院を防止できる環境構築が必要。 |
| | 現在どのように業務を遂行しているか | ◇ 入院患者の無断離院があった場合、スタッフが業務を離れて捜索にあっている。 |
| | 目指したい課題解決の姿（導入実証の目標） | ◇ ロボット等（IoTデバイスなどを含む）の活用によって院外への外出の早期発見あるいは抑制できるシステムの導入を通じて、無断離院による事案発生を防止できる環境を整えたい。 |
| | 課題の解決により実現したいこと | ◇ 入院患者の安全管理・確保を強化するとともに、スタッフの負担軽減及び本来業務に専念できる状態を実現したい。 |
| | ロボット等を施設で運用する際の留意事項 | — |

(4)

| | |
|-------------------|---|
| 施設名 | 栄聖仁会病院 |
| 住所 | 神奈川県横浜市栄区公田町 337-1 |
| 施設種別 | 医療施設 |
| 施設イメージ |  |
| 運営団体 | 医療法人社団聖仁会 |
| 施設の概要 | 栄聖仁会病院は横浜市栄区に立地する医療施設で、認知症治療病棟、精神一般病棟の計 106 床から構成。精神症状のため、在宅や一般施設・病棟での療養継続が困難となった高齢患者などを積極的に受け入れる病院。 |
| 募集内容（募集テーマ） | 1. ロボット等の活用によるオムツやリネン等の院内搬送業務の負荷低減（課題①） 2. ロボット等の活用による離床の早期検知（課題②） |
| 課題 | A) 入院患者のオムツ交換に関する業務 B) 入院患者が利用するリネン等の交換に関する業務 |
| ① 業務上、どのような課題があるか | <p>【A)の業務について】</p> <p>■ 課題：交換用のオムツ、使用済のオムツの搬送業務の負荷の高さ</p> <p>✓ 院内の各フロアに替えのオムツの保管、使用済オムツの一時保管をしている倉庫がある。交換用オムツのストックや使用済オムツ（オムツカート）を台車に載せ、毎日 6 回程度のオムツの交換業務を実施しており、スタッフの身体的な負荷が大きい。</p> <p>【B)の業務について】</p> <p>■ 課題：交換用のリネン、使用済のリネンの搬送業務の負荷の高さ</p> <p>✓ 院内に入院患者が使用するリネン（シーツ、タオル、入院着など）を保管している倉庫がある。スタッフがフロアをまたぎ、エレベーターを活用しストレッチャーに必要な大量のリネンを載せ、毎日 1 回程度リネン交換業務を実施しており、スタッフの身体的な負荷が大きい。</p> |
| 現在どのように業務を遂行しているか | <p>【A)の業務について】</p> <p>◇ 1 回のオムツ交換に、40-50 セットのオムツと使用済オムツ（オムツカート）を台車に載せ、スタッフが台車を押しながら倉庫から各入院患者の部屋を巡回。毎日 6 回程度のオムツ交換を実施。</p> <p>【B)の業務について】</p> <p>◇ 各種リネンをストレッチャー（長さ 2m、幅 60cm 程度）に載せ、入院患者フロアとは異なるフロアにある倉庫から、エレ</p> |

| | | |
|----|----------------------|---|
| | | ベーターを活用し、スタッフがストレッチャーを押しながら各入院患者の部屋を巡回。毎日1回程度のリネン交換を実施。 |
| | 目指したい課題解決の姿（導入実証の目標） | ◇ A) B)の業務ともに、スタッフの後方を追従する搬送用ロボットを活用することで、当該業務に伴うスタッフの身体的な負荷軽減を図りたい。 |
| | 課題の解決により実現したいこと | ◇ 業務負荷の低減を図り、既存スタッフの離職防止やスタッフの高齢化の進展を見据えた就業環境の改善につなげたい。また、働きやすい環境を構築することで、新たな人材の確保にもつなげていきたい。 |
| | ロボット等を施設で運用する際の留意事項 | ◇ 廊下幅は2m強、エレベーターも奥行2m、幅1.5m程度はあるため、追従型の搬送用ロボットもスタッフと一緒に稼働可能。 ◇ 導入実証はまずは認知症治療病棟（60床）から開始したい。 |
| 課題 | どのような業務に関する課題か | 入院患者の離床の早期検知、早期対応に関する業務 |
| ② | 業務上、どのような課題があるか | ■ <u>課題：離床の早期検知、スタッフの早期対応の必要性</u> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 入院患者のベッドからの転落を防ぐため、ベッドや床にセンサを設置しているが、検知・通知にタイムラグがあり、必ずしも離床の早期把握ができていない。 ✓ 離床の通知をナースステーションで検知できるようにしているが、スタッフがより早く離床の事実を把握し、患者のもとに駆け付けることができるようにする必要がある。 |
| | 現在どのように業務を遂行しているか | ◇ ベッドのマット部分、ベッドの柵、ベッドの床下にセンサを設置し、センサが離床を検知すると、ナースセンターのナースコールで検知できるようになっている。 |
| | 目指したい課題解決の姿（導入実証の目標） | ◇ (a)精度の高いセンサ（介護用ロボット）の使用による離床の正確かつ早期検知、(b)離床の検知結果をスタッフが携帯するモバイル端末に通知することで、スタッフがナースステーションにいない場合も早期に患者のもとに駆け付けることができるようにしたい。 |
| | 課題の解決により実現したいこと | ◇ 離床の早期検知を通じて、患者の転倒防止、医療事故の防止を図りたい。 |
| | ロボット等を施設で運用する際の留意事項 | ◇ 導入実証はまずは認知症治療病棟（60床）から開始したい。 |


(5)

| | |
|----------------------|---|
| 施設名 | 湯本富士屋ホテル |
| 住所 | 神奈川県足柄下郡箱根町湯本 256-1 |
| 施設種別 | 宿泊施設 |
| 施設イメージ |  |
| 運営団体 | 富士屋ホテル株式会社 |
| 施設の概要 | 湯本富士屋ホテルは、箱根宮ノ下の富士屋ホテルの姉妹ホテルとして1973年にオープン。その後、1996年にホテル新館を改築、2003年に本館耐震改修工事を経て現在に至る。 |
| 募集内容（募集テーマ） | <ol style="list-style-type: none"> 1. ロボット等の活用によるロビーやホワイエ等のパブリックスペースの清掃業務の効率化、省人化（課題①） 2. ロボット等の活用による従業員通路等のバックスペースの清掃業務の省人化（課題②） 3. ロボット等の活用による大浴場の清掃業務の効率化、省人化（課題③） |
| 課題 | ロビーやホワイエ等のパブリックスペースの清掃業務 |
| ① どのような業務に関する課題か | <p>■ <u>課題：パブリックスペースの清掃業務に要する工数削減の必要性</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 清掃スタッフの確保の都合上、館内のロビー（絨毯エリア）、ホワイエ等のパブリックスペースのゴミ拾い清掃に時間がかかっており、宿泊客が往来する時間帯に掃除機をかける必要が生じている。 ✓ 主に床の清掃に時間を要しており、細かい箇所の埃取りなどまで、十分手が回っていない状況がある。 |
| ① 業務上、どのような課題があるか | |
| 現在どのように業務を遂行しているか | <ul style="list-style-type: none"> ◇ パブリックスペースのゴミ拾い清掃業務は、清掃スタッフ1名が毎日2～3時間程度（昼間の時間帯）の時間を要している。 ◇ 上記に加え、明け方にナイトスタッフがハンディ掃除機で毎日30分程度の時間をかけてロビーを清掃している。 |
| 目指したい課題解決の姿（導入実証の目標） | ◇ ロボット等により、清掃業務を早朝あるいは深夜の時間帯に行うようにすることで、清掃業務の効率化・省人化を図りたい。 |
| 課題の解決により実現したいこと | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 非接客業務をロボット等で代替することで、スタッフをより付加価値の高い業務に専念させ、施設としての魅力の向上、生産性の向上につなげたい。 ◇ 床やフローリング以外の細かい部分の清掃（埃取りなど）に人的リソースを割けるようにしたい。 |
| ロボット等を施設で運用 | ◇ 館内のWi-Fiが清掃エリア全体をカバーできる形で完備さ |

| | | |
|----------|----------------------|--|
| する際の留意事項 | | れていないため、一部、Wi-Fi 接続ができない可能性がある。 ✧ 床の絨毯にダメージが生じない程度の重さのロボット等であることが要件。 |
| 課題 | どのような業務に関する課題か | 従業員通路等のバックスペースの清掃業務 |
| ② | 業務上、どのような課題があるか | ■ <u>課題：バックスペースの清掃業務に要する工数削減の必要性</u> ✓ 従業員が利用するバックスペースの通路は宿泊客が利用するエリアの清掃終了後に実施しており、毎日決まった清掃時間を確保できていない。 ✓ 従業員通路を利用するスタッフの業務との干渉を避けながら清掃業を行う必要があり効率が悪い。 |
| | 現在どのように業務を遂行しているか | ✧ 従業員が利用するバックスペースの通路は宿泊客が利用するエリアの清掃終了後に実施。 ✧ パブリックスペースのロビーには絨毯を敷いているが、バックヤードの床は塩ビタイルのため、ゴミ拾いとモップ掛けの両方の清掃を実施。 |
| | 目指したい課題解決の姿（導入実証の目標） | ✧ バックヤードの清掃業務はスタッフの行き来が少ない夜間、あるいはレストランの営業時間帯にロボット等が行い、清掃業務の省人化を図りたい。 ✧ バックヤードを行き来するスタッフ、配膳ロボットとの干渉を避け、万が一ロボット等が止まってしまった場合には、スタッフのモバイル端末に通知が飛ぶようにしたい。 |
| | 課題の解決により実現したいこと | ✧ 非接客業務をロボット等で代替することで、スタッフをより付加価値の高い業務に専念させ、施設としての魅力の向上、生産性の向上につなげたい。 ✧ バックヤードの清掃に従事しているスタッフを、宿泊客が利用するエリアの清掃業務に配置転換したい。 |
| | ロボット等を施設で運用する際の留意事項 | ✧ バックヤードの清掃エリアは館内の Wi-Fi がカバー ✧ 現在、バックヤードを配膳ロボットが 2 台稼働中 ✧ 通路の幅は狭く、人が横並びで 2 名程度の幅しかない箇所もある |
| 課題 | どのような業務に関する課題か | 大浴場の浴槽内及び洗い場の清掃業務 |
| ③ | 業務上、どのような課題があるか | ■ <u>課題：大浴場の清掃業務に要する工数削減の必要性</u> ✓ 大浴場の清掃業務が宿泊客のチェックアウト時間と重なっているため、フロントにおけるチェックアウト業務で突発的な事案が生じた場合、人手が不足し接客対応に時間を要している。 ✓ 大浴場の清掃業務は、スタッフの身体的負荷が大きい。 |
| | 現在どのように業務を遂行しているか | ✧ 大浴場の清掃業務は 10:00～12:00 の 2 時間で実施しており、男女それぞれの大浴場を同時に 2～3 名のスタッフ（計 6 名程度）が分かれて業務を実施。 |
| | 目指したい課題解決の姿（導入実証の目標） | ✧ ロボット等を 1 台導入し、例えば、10:00～11:00 までは男性浴場、11:00～12:00 までは女性浴場の清掃を行うような運用を行うことで、大浴場の清掃業務に従事するスタッフ約 6 名のうち、1～2 名分の作業をロボット等で代替したい。 |
| | 課題の解決により実現したいこと | ✧ 非接客業務をロボット等で代替することで、スタッフをより付加価値の高い業務に専念させ、施設としての魅力の向上、生産性の向上につなげたい。 |


| | |
|---------------------|---|
| ロボット等を施設で運用する際の留意事項 | ◇ 大浴場内に Wi-Fi 機器を持ち込んでも通信接続は困難な可能性がある。また、4G、5G の電波も微弱である。 |
|---------------------|---|

(6)

| | |
|-------------------|---|
| 施設名 | わかたけ富岡 |
| 住所 | 神奈川県横浜市金沢区富岡東 2-1-5 |
| 施設種別 | 介護施設 |
| 施設イメージ |  |
| 運営団体 | 社会福祉法人若竹大寿会 |
| 施設の概要 | 2002 年に開所された社会福祉法人若竹大寿会が運営する特別養護老人ホーム。横浜シーサイドライン南部市場駅徒歩 1 分に立地し、「職員一丸となって人を幸せにします。人が大切にされる世の中をつくります」という法人理念のもと個々の施設サービス計画に基づき、入浴、排せつ、食事等の介護、相談、援助、社会生活上の便宜の供与その他の日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上の世話をを行う。 |
| 募集内容（募集テーマ） | 1. ロボット等の活用によるトイレへの誘導及びオムツ交換の最適なタイミングの把握 |
| 課題 | A) トイレ誘導タイミングの把握・分析に関する業務 B) オムツ交換に関する業務 |
| ① 業務上、どのような課題があるか | <p>【A)の業務について】</p> <p>■ 課題：施設ご利用者をトイレに誘導する最適なタイミングを把握するための測定業務に伴うご利用者、スタッフの負荷の高さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 施設ご利用者の日中のトイレ誘導の最適なタイミングを把握するため、スタッフがオムツ内への排尿有無の確認・記録等を実施しており、業務の効率化を図りたい。 ✓ オムツ内の排尿有無の確認を最適なタイミングで行い施設ご利用者の尊厳を確保し、排泄ケアを受けることに伴う心理的負担を軽減したい。 <p>【B)の業務について】</p> <p>■ 課題：オムツを使用する施設ご利用者のオムツ交換業務の負荷の高さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ オムツを使用する施設ご利用者を対象にオムツの定時交換を実施しているが、排尿量、排尿のタイミングは日々異なるため、最大の排尿量をもとに使用するオムツを決めているが、実際には約 4 割しか使用していない。 ✓ 排尿状況を把握し、オムツ交換に関する業務の効率化、オムツ使用料の削減を図りたい。 |
| 現在どのように業務を遂行しているか | <p>【A)の業務について】</p> <p>☆ 施設ご利用者ごとに 1 名あたり 82 分（測定期間 3 日＋分析の工数）を要している。当該業務は介護スタッフ約 44 名のほぼ全員従事している。</p> |

| | |
|----------------------|---|
| | <p>【B)の業務について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ オムツの定時交換として、1日に11回程度実施。1回のオムツ交換に約5分程度の時間を要している。 |
| 目指したい課題解決の姿（導入実証の目標） | <p>【A)の業務について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 介護用ロボット等（IoTデバイスなどを含む）を活用し、オムツ内への排尿有無の確認・記録に関する集計業務を9割削減したい。 ◇ 施設ご利用者の心理的負担を軽減し、排泄の尊厳を維持することにより、心身機能のできるだけだけの維持につなげたい。 <p>【B)の業務について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 介護用ロボット等（IoTデバイスなどを含む）を活用し、オムツのパットの使用割合を把握し、定時交換までの排尿量を見積もることで、定時交換を間引くことにより、オムツ交換の回数を3割程度削減したい。 ◇ オムツを使用する施設ご利用者ごとの排尿傾向を把握するとともに、適切なサイズのオムツパットを使用することで、オムツ使用量を重量ベースで約3割削減したい。 |
| 課題の解決により実現したいこと | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 施設ご利用者の快適性を維持しつつ、業務の効率化を通じて削減できた時間を施設ご利用者に対するケアに充てることで、人員配置の最適化につなげたい。 |
| ロボット等を施設で運用する際の留意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 導入実証の実施を予定しているエリアの施設内のWi-Fiが微弱の可能性がある。 |

(7)

| | | |
|-------------|--|---|
| 施設名 | 湘南ヘルスイノベーションパーク | |
| 住所 | 神奈川県藤沢市村岡東 2-26-1 | |
| 施設種別 | 研究施設 | |
| 施設イメージ |  | |
| 運営団体 | アイパークインスティテュート株式会社 | |
| 施設の概要 | 日本初の製薬企業発サイエンスパーク。幅広い業種や規模の産官学が結集してヘルスイノベーションを加速する場となることを目指しており、製薬企業のみならず、次世代医療、細胞農業、AI、行政など約 170 社、2,500 人以上（2023 年 9 月現在）の企業・団体が集積し、エコシステムを形成している。 | |
| 募集内容（募集テーマ） | 1. ロボット等の活用による施設内の案内誘導、警備業務の補完・代替 | |
| 課題 | どのような業務に関する課題か | 来館者の案内業務 |
| ① | 業務上、どのような課題があるか | <p>■ 課題：広大な敷地・施設内の来館者の案内・誘導機能の拡充の必要性</p> <p>✓ 来館者（入居企業に対する来客）が来た場合、入居企業のスタッフが守衛室あるいは建物玄関まで出迎えに行く。遠い場合は 400m ほどの距離があるため、入居企業のスタッフにとっての手間・負担が大きい。</p> |
| | 現在どのように業務を遂行しているか | ◇ 特に、15 名以上の団体での来館の場合、守衛室に入居企業のスタッフが迎えに行くことがルールとなっている。 |
| | 目指したい課題解決の姿（導入実証の目標） | <p>◇ 来館者の案内・誘導をロボット等で代替し、入居企業の負担軽減を図りたい。</p> <p>◇ 案内・誘導機能の拡充に加え、施設内をロボット等が巡回し警備業務を補完することで、侵入者の早期発見などにつなげたい。</p> |
| | 課題の解決により実現したいこと | <p>◇ 入居企業のスタッフの負担軽減による入居満足度の向上につなげたい。</p> <p>◇ テクノロジーを活用した施設サービスの提供を通じて、当施設のブランディングにつなげたい。</p> |
| | ロボット等を施設で運用する際の留意事項 | <p>◇ ロボット等とエレベーターとの連携が実現できれば、建物玄関から目的先（入居企業のオフィス）まで 1 台のロボット等で誘導したい。なお、エレベーターとの連携ができない場合、1～4 階の各フロアにロボットを 1 台ずつ配置し運用するなどの代替策をとりたい。</p> <p>◇ 玄関や通路などにガラス張りのエリアがあり、自律移動型ロボット等の走行の障壁になる可能性がある。</p> |